

報告日 令和 6年 7月 15日 (月)	報告者 吉武惇二
分科会名 古文書を読む会	開催テーマ：酒井伴四郎の江戸勤務日記
開催日時 令和 6年 7月 11日 (木) 午前 10:00 ~ 12:00	開催場所 金沢公会堂第2会議室
参加人数 男性 8名 女性 3名 合計 11名 (欠席者 4名)	
<p>今月の学習会は、冒頭、真田講師から A4 サイズ 1 枚の「くづし字の一例」が配布され、頻繁に出てくる漢字のくづし字について解説があった。その後、伴四郎の日記に移り、7月25日から29日まで精読した。</p> <p>日記によれば、7月中は衣紋稽古はなく、雑務や 友人、同僚、使用人などとの付き合いの様子が主に記録されている。長屋暮らしの生活に慣れてきたのか、叔父や直助との暮らしについて、少しずつ個性の表れた描写が書かれている。</p> <p>7月28日の日記には、叔父様について、「昨日より腹痛むと仰せられ、誠に大食成る事、直助と兩人肝をつぶし候」と書かかれており、「腹が痛いならば、大食は慎めばいいのに……」と遠慮勝ちに述べている。</p> <p>また、7月29日の日記には、叔父様は「酔二合取りなられ候を、3割に致し候はんと致し候ところ、直助彼是申す、ついには叔父様口唇壱間程延ばしながらお出しなられ候」と、叔父様の頑固ぶりを記述している。登場人物の性格が顕れていて面白い。</p>	
<p>次回予定 令和 6年 8月 8日 (木) 10:00 ~ 12:00</p> <p>場 所：金沢公会堂第2会議室</p> <p>テーマ：酒井伴四郎の江戸勤務日記</p>	